



SAS[®] Deployment Wizard ユーザーガイド



著作権情報

このマニュアルの正確な書籍情報は、以下のとおりです。

SAS® Deployment Wizard User's Guide

Copyright® 2012, SAS Institute Inc., Cary, NC, USA.

本書は、発行元であるSAS Institute, Inc.の事前の書面による承諾なく、この出版物の全部あるいは一部を、電子データ、印刷、コピー、その他のいかなる形態または方法によって、複製、転送、または検索システムに保存することは禁止されています。これらの説明書は著作権により保護されています。

著作権保護を受ける本書の使用の範囲は制限されています。許される使用の範囲とは、使用者のシステムに保存して端末に表示すること、本書が提供された目的である、SASプログラミングおよびライセンスプログラムのインストール・サポートの責任者が使用するために、必要な部数だけコピーすること、および特定のインストール要件を満たすように内容を修正することを指します。本書の全部あるいは一部を印刷する場合、またはディスプレイ媒体に表示する場合は、SAS Instituteの著作権表示を明記する必要があります。上記の条件以外で本書を複製または配布することは一切禁止されています。

アメリカ合衆国政府の制約された権限についての通知

アメリカ合衆国政府による、本ソフトウェアおよび関連するドキュメントの使用、複製、公開は、「FAR52.227-19 Commercial Computer Software-Restricted Rights」（1987年6月）に定められた制限の対象となります。

SAS Institute Inc., SAS Campus Drive, Cary, North Carolina 27513.

SAS®およびSAS Instituteのプロダクト名またはサービス名は、米国およびその他の国におけるSAS Institute Inc.の登録商標または商標です。

®は米国で登録されていることを示します。

その他、記載されている会社名および製品名は各社の登録商標または商標です。

目次

第1章 SAS Deployment Wizardおよびユーザーガイドの概要 -----	1
SAS Deployment Wizard について -----	1
ユーザーガイドの使用方法 -----	1
用語の定義 -----	1
Software Orderメール (Software Order E-mail : SOE) -----	1
SASソフトウェアデポ -----	1
SASインストールデータ (SAS Installation Data:SID) ファイル -----	2
SAS Order Information (SASオーダー情報) -----	2
標準 (Basic) とプラン (Planning) -----	2
SASHOME(SASホーム) -----	2
配置プラン (Deployment Plan) -----	2
Windows Terminal Server の使用における注意点 -----	3
Windows 7 における注意点 -----	3
Vital Product Registry に関する注意点 -----	3
UNIX ウィンドウ環境における注意点 -----	3
UNIX 環境におけるrootによるインストール -----	3
SAS OnlineDoc for the Web のインストール -----	3
第2章 SAS Deployment Wizardの最適な使用方法 -----	5
デフォルトを使用する -----	5
SASソフトウェアデポ -----	5
ディレクトリ構造 -----	5
SASソフトウェアデポからメディアを作成する -----	6
メディアを作成する際の注意 -----	6
SASソフトウェアデポの移動 -----	7
SASソフトウェアデポの削除 -----	7
SID ファイルの管理 -----	8
配置プランファイルの格納と使用 -----	8
第3章 クライアントユーザーおよびパーソナル (個人) ユーザーのためのソフト	
ウェアデポの作成 -----	9
クライアントソフトウェアデポの作成 -----	9
パーソナルソフトウェアデポの作成 -----	11
第4章 コマンドラインオプション -----	13

Quietインストール -----	13
記録と再生 -----	13
記録モード (Record Mode) -----	13
Quiet再生モード (Quiet Playback Mode) -----	14
Quiet再生モード中のSAS Deployment Wizardの監視 -----	15
対話的再生モード (Interactive Playback Mode) -----	16
再起動 (Windowsのみ) -----	16
ドメインの指定 -----	16
ユーザーIDの指定 -----	16
パスワードの指定 -----	17
ログの作成 -----	17
その他 -----	17
異なるSASHOME (SASホーム) の指定 (Windowsのみ) -----	17
プロビジョニング (Windowsのみ) -----	18
Java実行環境 (JRE) の変更 -----	18
JRE変更後の再構成 -----	19
スタンドアロンプロダクトのインストール -----	19
コマンドラインオプションの一覧の表示 -----	19
第5章 基本的なトラブルシューティング -----	21
SAS Deployment Wizardのログファイル -----	21
インストールのログファイル -----	21
トラブルシューティングのヒント -----	21
SASソフトウェアのインストールにおけるトラブルシューティング -----	22
Windows Vistaを使用している場合の [ユーザーアカウント制御] ダイアログの表示 -----	22
ソフトウェアの設定におけるトラブルシューティング -----	22
デフォルト値の欠落 -----	22
SASソフトウェアのアンインストールにおけるトラブルシューティング -----	22
VPDにインストールしたコンポーネントが見当たらない -----	22
「The Scrollbar Page Increment is Less than 1」の表示 -----	23
第6章 追加ツール -----	25
SAS Uninstall Wizard (Windows環境のみ) -----	25
SAS Uninstall Wizardの実行 -----	25
削除されたSASプロダクトの確認 -----	26
SAS Uninstall Wizardコマンドラインオプション -----	26
Advanced Options (アドバンスオプション) の使用 -----	26
トラブルシューティング -----	28
トラブルシューティングにおけるSASファイルの分析 -----	28
SAS Uninstall Wizardによって削除されないプロダクト -----	28
SAS VJR Uninstall Wizard -----	29
SAS Update File Cleanup Utility -----	29
View Registry -----	30

付録A Windowsの管理 -----	33
ターミナルサーバー環境またはCitrixにおけるSASインストールの準備 -----	33
ターミナルサーバー環境またはCitrixにおけるSAS 9.2のインストール -----	34
付録B UNIXの管理 -----	35

第1章 SAS Deployment Wizardおよびユーザーガイドの概要

SAS Deployment Wizardについて

SAS Deployment Wizardは、すべてのSAS 9.2ソフトウェアのインストールおよび配置に使用する、共通のインターフェイスです。SAS Deployment Wizardを使用して、SAS 9.2ソフトウェアのインストールに必要なファイルとデータのリポジトリであるSASソフトウェアデポを作成し、情報をやり取りすることができます。SAS Deployment Wizardの機能をすべて生かしたインストールを行うと、1台のマシンへのインストールからいくつもの層にまたがる複数台のマシンへのインストールまで、幅広い配置を行うことが可能です。どちらに対しても、対話的にもしくは非対話的に作業することができます。

ユーザーガイドの使用方法

このユーザーガイドは、SAS Deployment Wizardおよびその操作のためのサポート情報を提供するドキュメントです。このドキュメントは、各SAS Deployment Wizardのダイアログから起動するヘルプと共に、ソフトウェアのインストールと配置を支援する情報を提供します。しかし、さらに詳細な技術情報が必要な場合、または各画面の詳細を知りたい場合、『SAS 9.2 Intelligence Platform: SAS 9.2 Intelligence Platform: Installation and Configuration Guide』を参照してください

<http://www.sas.com/japan/service/documentation/onlinedoc/intellplatform/>

それでも不明な点がありましたら、SASテクニカルサポートまでお問い合わせください。

用語の定義

SAS ソフトウェアでは、より容易にインストールを行うために、いくつかの新しい考え方を導入しています。このセクションでは、SAS 9.2のインストールと配置に必要な用語について説明します。

Software Orderメール (Software Order E-mail : SOE)

Software Orderメールには、SASソフトウェアのパッケージ、およびSASソフトウェアのインストールの準備に関する重要な情報が含まれています。Software Orderメールは、各サイトのSASインストール担当者宛に発信されます。

Software Orderメールが見つからない場合、弊社の契約法務本部契約部までお問い合わせください。

SASソフトウェアデポ

SASソフトウェアデポは、ネットワーク上のインストールメディアのリポジトリです。SAS Deployment Wizardは、ユーザーが所有するSAS 9.2インストールメディアからSASソフトウェアデポを自動的に作成するプロセスを起動できます。

SASインストールデータ (SAS Installation Data:SID) ファイル

SASインストールデータファイルは、カスタマイズされたインストール情報とプロダクト認証情報からなります。SAS Deployment Wizardは、SIDファイルのインストール情報を使用し、ライセンスされたソフトウェアのインストールおよびカスタマイズされたプロダクトのライセンス情報の適用を行います。このファイルは、sas92_xxxxxx_yyyyyyyy_zzz.txtの形式となっています。xxxxxxはオーダー番号、yyyyyyyyはsetnumid (テクニカルサポートサイト番号)、zzzはライセンスを適用するオペレーティングシステムを表します。

オーダーしたソフトウェアのSIDファイルは、SASソフトウェアデポのsid_filesディレクトリ、またはインストールメディアを受け取っている場合はメディアの最初のディスクのルートディレクトリのsid_filesディレクトリにあります。

SAS Order Information (SASオーダー情報)

SAS Order Informationは、オーダーしたSASソフトウェアのリストが含まれているファイルです。このリストは、Software Orderメールに含まれているものと同じです (Software Orderメールは日本語で提供しています)。SAS Order Informationファイルは、SASソフトウェアデポの/install_doc/<order number>/soi.htmlにあります。

標準 (Basic) とプラン (Planning)

Software Orderメール、およびSAS Order Informationには、オーダーの種類 (Order Type) を示すフィールドがあります。このフィールドの値は、BasicまたはPlanningのどちらかになります。Basic (標準) オーダーは、通常は1台のマシンへの配置です。Planningオーダーは、より複雑な複数台のマシンへの配置です。複数のオーダーが存在する場合、このオーダーの種類によってオーダーを見分け、SAS Deployment Wizardの各項目を検討する際の方向性を決定します。

SASHOME(SASホーム)

SASHOMEは、マシン上のSASソフトウェアがインストールされる場所を指します。SASHOMEは、SAS Deployment Wizardで最初にソフトウェアをインストールするときに決定されます。また、他のSASソフトウェアを同じマシンにインストールする場合にはデフォルトのインストール場所になります。Windowsの場合、最初にマシン上でSAS Deployment Wizardを使用する際に、一度だけSASHOMEの場所の指定を求められることを意味します。

たとえば、WindowsのデフォルトのSASHOMEは、c:\Program Files\SASです。

配置プラン (Deployment Plan)

Basic (標準) オーダーのほとんどのインストールでは、配置プランを必要としません。配置プランは、SAS Deployment Wizardでインストールするソフトウェアを予め選択することです。配置プランには、配置プランの説明、インストールする対象マシンの識別、インストールおよび設定するソフトウェアのリストが含まれています。配置プランは、plan.xmlという名前のXMLファイルです。

SAS Deployment Wizardには、少しカスタマイズすることで使用できるサンプルのプランが用意されています。SASコンサルタントとともにソフトウェアの配置について検討する場合、

SASコンサルタントはツールを使用して、インストールに必要なカスタマイズされた配置プランを作成します。

Windows Terminal Serverの使用における注意点

Windows Terminal Server(Terminal Service)を使用する場合、ターミナルサーバー上のすべてのインストールおよびその後のアップデートの適用において、同じアカウントを使用しなければなりません。

Windows 7における注意点

Windows 7では、SAS Deployment Wizardが要求するのとは異なるJRE (1.6.0_14以降)が必要です。Windows 7のマシンで配置を行う場合、JRE1.6.0_14以降がインストールされていることを確認してください。そして、SAS Deployment Wizardの表示するダイアログで、JREがインストールされている場所を指定します。

注意：詳細は、『SAS Third Party Software Requirements - Baseline and Higher Support』を参照してください。

http://support.sas.com/resources/thirdpartysupport/baseline_plus.html

Vital Product Registryに関する注意点

SASソフトウェアへのアップデートの適用を行うには、インストールデータが「Vital Product Registry」に格納されていなければなりません。このレジストリは、SASHOMEディレクトリ作成され、<SASHOME>%Gen1に配置されます。アプリケーションのアップデートを正しく行うために、このレジストリに対し、どのような方法でも移動、変更、削除を行うべきではありません。Vital Product Registryを削除するのは、SASソフトウェアをマシンから完全にアンインストールする場合のみにしてください。

UNIXウィンドウ環境における注意点

UNIX環境にソフトウェアをインストールする場合、X11のようなウィンドウ環境がインストールされていることを確認してください。SAS Deployment Wizardは、グラフィカルユーザーインターフェイスを使用しています。

UNIX環境におけるrootによるインストール

HP-UXまたはSolarisにおいて、Javaのインストールがrootアカウントで行われた場合、Vital Product Registryは作成されません。このことは、今後のインストールにおいて、インストールが失敗したりや正しく行われないことを引き起こす可能性があります。SAS社は、すべてのインストールをsasアカウントで行い、rootアカウントは使用しないことを強く推奨します。

SAS OnlineDoc for the Webのインストール

SAS Deployment Wizardによるオーダーしたソフトウェアの配置の終了後、必要に応じてSAS OnlineDoc for the Webの配置と設定を行います。これらの作業の詳細は、『SAS Intelligence Platform: Web Application Administration Guide』を参照してください。このドキュメントは、<http://support.sas.com/92administration/>から入手できます。

第2章 SAS Deployment Wizardの最適な使用方法

この章では、SAS Deployment WizardおよびSASソフトウェアデポの最適な使用方法について解説します。

デフォルトを使用する

SAS Deployment Wizardの使用において、SAS社は表示されるダイアログのデフォルトの設定を使用することを推奨します。デフォルトを使用しない、またはデフォルトが提供されない場合、今後起こりうる問題のために、使用した値を書き留めて置いてください。SAS Deployment Wizardが起動している間は、各ダイアログに移動して、項目の確認や変更ができます。

デフォルトを変更した場合、その設定は、その後にSAS Deployment Wizardをする際のデフォルトの設定になります。

SASソフトウェアデポ

SASソフトウェアデポは、ネットワーク上のインストールメディアのリポジトリです。

ディレクトリ構造

SASソフトウェアデポは、すべてのオーダーにおいて共通のディレクトリ構造を持ちます。下記は、SASソフトウェアデポのルートディレクトリにあるインストールに関連するディレクトリおよびその内容の説明です。SAS社は、どのような方法でも、手動でディレクトリ構造を変更しないことを強く推奨します。そのかわりSAS Deployment Wizardを使用して、必要なディレクトリの操作を行ってください。

インストール時にユーザーが関連するディレクトリは3つあります。

- `sid_files` – このサブディレクトリには、このオーダーのためのSASインストールデータファイル（SIDファイル）が含まれています。インストール中、SAS Deployment WizardにSIDファイルの場所を指定します。デフォルトでは、このディレクトリがSIDファイルの保存場所として設定されています。ライセンスの更新で新しいSIDファイルを受け取った際は、`sid_file`ディレクトリに保存してください。
- `third_party` – このサブディレクトリには、SASが提供できるこのオーダーに必要なサードパーティソフトウェア、およびそのインストールのためのドキュメントが含まれています。『クイックスタートガイド（QuickStart Guide）』は、インストールプロセスの中の適切な箇所、サードパーティソフトウェアをインストールするように指示しています。
- `install_doc` – このサブディレクトリは、オーダーに基づく小さなサブディレクトリに分かれています。各オーダーのディレクトリは、SAS Order Informationファイルおよび`ordersummary.html`ファイルを含んでいます。`ordersummary.html`ファイルは、オーダーに含まれるすべてのプロダクトのリストです。

SASソフトウェアデポからメディアを作成する

SAS Deployment Wizardを使用して、既存のSASソフトウェアデポからメディアを作成することができます。このプロセスは、オーダーのデータに記録されている最初のオーダーのコピーを作成します。ファイル（たとえば更新用のSIDファイル）をSASソフトウェアデポに追加しても、そのような手動の操作はオーダーのデータには記録されないため、複製プロセスに自動的に含まれません。この複製プロセスは、メディアのイメージを作成します。実際にメディアに焼くには、ライティングソフトウェアを用意する必要があります。SASソフトウェアデポからメディアを作成する方法は、次のとおりです。

1. メディアにするオーダーを含むSASソフトウェアデポから、SAS Deployment Wizardを起動します。[配置タスクの選択] ダイアログで、[このSASソフトウェアデポの管理]、さらに[次へ] をクリックします。
2. [SASソフトウェアデポの管理] が表示されます。メディアを作成するオーダーを選択し、[Media-Readyイメージの作成] をクリックします。
3. [メディアの作成] が表示されます。[メディアの種類] フィールドで、作成するメディアの種類を選択します。[ターゲットディレクトリ] フィールドで、メディアのイメージを作成する場所を入力します。作成場所を選択するには、[参照] ボタンをクリックします。[開始] をクリックして、メディアのイメージを作成します。
4. SAS Deployment Wizardがイメージの作成を終了したら、[メディアの作成] ダイアログを閉じ、[完了] をクリックします。
5. 手順3で指定した、メディアのイメージを作成した場所に移動します。SAS Deployment Wizardは、labels.txtファイル、および少なくとも1つのサブディレクトリからなる、ディレクトリ構造を作成しています。labels.txtファイルには、作成したサブディレクトリ名、およびこれらディレクトリの内容を焼くメディアに付けるラベル名が含まれています。また、特定のソフトウェアのオーダーでは、必要となる追加の作業手順が含まれている場合もあります。
6. ターゲットディレクトリにあるサブディレクトリと同じ数のメディアが必要になります。labels.txtファイルの記述に従って、メディアにラベルを付けるか書き込んでください。
7. ライティングソフトウェアを使用して、ラベルを付けたメディアに各サブディレクトリの中身を焼いてください。

注意： サブディレクトリ自体をメディアに焼かないでください。サブディレクトリを開きその中身をメディアに焼いてください。作成したメディアを使用する際、メディアのトップディレクトリには、インストールに必要なファイルがなければなりません。サブディレクトリごとメディアに焼くと、メディアの使用を妨げる余分なディレクトリが挿入されたこととなります。

メディアを作成する際の注意

SAS Deployment Wizardの開発およびテスト中、SAS社はメディアとライティングソフトウェア間における問題点を発見しました。これらは時として予期しないエラーをもたらすことがあります。これらのエラーは、SAS Deployment Wizardを含むSASソフトウェアが原因でありま

せん。これらの問題は、メディアを焼く過程における失敗、またはメディアを焼くドライブとメディアを読み込むドライブの仕様の相違によるものです。

メディアを焼く際と読み込みの際、同じ種類のドライブを使用するようにしてください。メディアの読み込みの際に異なるドライブを使用した場合、インストールが中断しファイルに問題があると表示されるなど、予期しないエラーが起こる場合があります。テストでは、どの場合も、ファイルの問題はメディアに焼く過程で発生していること、およびインストールの中断は焼いたメディアを読み取り側が読めないことを示していました。同じ種類のドライブを使用することが、問題を生じさせないという保証はありませんが、問題を生じさせる可能性をより少なくします。また、使用しているライティングソフトウェアが、メディアのディレクトリ名とファイル名を保持しているかを確認してください。つまり、パス名を構成するいずれの部分も切り詰めてはなりません。

また、ライティングソフトウェアの多くが、オペレーティングシステム固有であることに注意してください。焼いたメディアを、それを焼くのに使用したのとは異なるオペレーティングシステムで使用する場合、ライティングソフトウェアがそのオペレーティングシステムをサポートしているかどうか確認してください。

SASソフトウェアデポの移動

SASソフトウェアデポを元にあった場所から移動またはコピーする場合、方法は移動元および移動先のネットワーク事情に依存します。ネットワークのある場所から同じネットワーク上の他の場所へ移動させる場合、通常のファイルコピーおよび移動方法を使用することができます。ネットワーク上でない場所同士でSASソフトウェアデポを移動するには、前述のメディア作成方法を使用することができます。SASソフトウェアデポの移動またはコピーに使用するツールは、ファイル名の太文字小文字を変更してはならず、またロングファイル名を8.3形式に切り詰めてはならないことに注意してください。

1. 上記の「SASソフトウェアデポからメディアを作成する」で解説した手順を実行してください。
2. SASソフトウェアデポを作成するマシンに作成したメディアを用意します。最初のメディアを挿入し、各オペレーティングシステム用の起動ファイルを選択し、SAS Deployment Wizardを起動します（例：Windowsの場合はsetup.exeになります）。手元にあるメディアが1枚の場合、[配置タスクの選択] ダイアログで、[SASソフトウェアデポの新規作成]を選択し、および[次へ]をクリックします。SAS Deployment Wizardに表示される手順に従って、ファイルをメディアから新しい場所にコピー（新しいSASソフトウェアデポの作成）してください。

複数枚のメディアが手元にある場合、SAS Deployment Wizardはダイアログを表示してSASソフトウェアデポの作成を自動的に開始します。

SASソフトウェアデポの削除

SAS社は、SASソフトウェアデポを削除しないことを推奨します。SASソフトウェアデポを残しておいた場合、SASオーダー全体を再度ダウンロードする代わりに、変更されたデポのファイルのみをダウンロードし、簡単にメンテナンスおよびアップグレードを適用できます。

空きディスク容量の関係上、SASソフトウェアのインストール後にSASソフトウェアデポを削除する場合があります。SASソフトウェアデポを削除する場合、必要になる場合に備えて、メ

メディアにバックアップすることを推奨します。バックアップメディアの作成方法は、前述の「SASソフトウェアデポからメディアを作成する」を参照してください。

バックアップを作成することなくSASソフトウェアデポを削除すると、SAS Deployment Wizardとそれを実行するのに必要なファイルも削除されることに注意してください。

SIDファイルの管理

SIDファイルの管理に関して、注意点が2つあります。1つ目は、SIDファイルのデフォルトの保存場所を使用するか、保存場所を正確に記録しておいてください。2つ目は、その後に受け取るSIDファイルも同じ場所に保存してください。前述のsid_filesサブディレクトリにSIDファイルを保存すると、これらの目的を両方とも満たすことになります。

企業全体に配置を行っている場合、すべてのユーザーが利用できるように、SIDファイルをネットワーク上に保存することも考慮してください。

配置プランファイルの格納と使用

デフォルトでは、ソフトウェアと一緒に出荷された配置プランファイルは、SASソフトウェアデポのルートにあるplan_filesディレクトリに保存されています。カスタマイズされた配置プランファイルを受け取るまたは作成した場合、それらもplan_filesディレクトリに保存すべきです。配置プランファイルを区別するために、各plan.xmlファイル用の新しいディレクトリをplan_filesディレクトリに作成するか、あるいは単に接頭辞を追加する（entbiserver.plan.xmlなど）ことができます。接頭辞を追加する場合、ファイル名の終わりは必ずplan.xmlとしてください。

SASソフトウェアのインストール後、配置プランファイルは厳密には必要ありません。しかし、プロセスの記録管理、将来の再インストールおよび再設定、プロダクトの追加のために手元に保存しておくこともあります。

第3章 クライアントユーザーおよびパーソナル（個人）ユーザーのためのソフトウェアデポの作成

注意：この章の情報は、Microsoft Windowsおよび64-bit Microsoft Windows（Itanium）環境のBasic（標準）オーダーの場合に当てはまります。オーダーがBasic（標準）またはPlanning（プラン）のどちらであるかを確認するには、Software Orderメール（SOE：Software Order E-mail）または『SAS Order Information』シートの「オーダーの種類（Order Type）」を参照してください。他のオペレーティングシステムを使用している、またはオーダーがPlanning（プラン）の場合、この章で述べているダイアログは表示されません。

クライアントイメージおよびパーソナルソフトウェアデポは、SASソフトウェアのサーバークライアント配置を容易にするために、システム管理者が使用する方法です。クライアントイメージは、ファイルサーバーとして動作し、エンドユーザーがSASを実行するネットワークイメージです。SAS Deployment Wizardを使用して、選択したソフトウェアのみエンドユーザーが使用できるように、このイメージをカスタマイズできます。パーソナルソフトウェアデポは、エンドユーザーがローカルのPCにSASのインストールを行うインストール元となる、既存のSASソフトウェアデポのサブセットです。SAS Deployment Wizardを使用して、選択したソフトウェアのみエンドユーザーが使用できるように、この新しいソフトウェアデポをカスタマイズできます。ただし、クライアントイメージおよびパーソナルソフトウェアデポは、そのオーダーのSAS Foundationと同じオペレーティングシステム上にのみ作成できることに注意してください。たとえば、32-bit Microsoft Windowsのオーダーの場合、64-bit Microsoft Windows（Itanium）のマシン上にクライアントイメージおよびパーソナルソフトウェアデポを作成できません。

クライアントイメージとパーソナルソフトウェアデポの重要な違いは、クライアントイメージがサーバーのSASソフトウェアの使用をエンドユーザーに許可するところにあります。パーソナルソフトウェアデポでは、ユーザーは自分のマシンにソフトウェアをインストールできます。どちらの場合も、新しく作成されたイメージは、既存のSASソフトウェアデポのサブセットになります。

クライアントソフトウェアデポの作成

1. 作業するディレクトリのルートからSAS Deployment Wizardを起動します。
2. [言語の選択] ダイアログで、SAS Deployment Wizardを実行する言語を選択します。
3. [配置タスクの選択] ダイアログが表示されます。[SASソフトウェアデポの新規作成] を選択し、[次へ] をクリックします。
4. 複数のオーダーを含むSASソフトウェアデポからこのタスクを実行している場合、[ソフトウェアオーダーの選択] ダイアログが表示されます。クライアントイメージを作成するソフトウェアオーダーを選択し、[次へ] をクリックします。
5. [オーダーの詳細の指定] ダイアログが表示されます。内容に誤りがないかどうか、[オーダー番号] フィールドと[インストールするSASプロダクト] フィールドを確認します。[説明] および[メモ] フィールドに、新しいソフトウェアデポを識別するための情報を

入力しておきます。クライアントイメージを作成する準備ができたなら、[次へ] をクリックします。

6. [SASソフトウェアデポのオプションの選択] ダイアログが表示されます。[クライアントユーザー] を選択し、[次へ] をクリックします。
7. [SASインストールデータの指定] ダイアログが表示されます。SAS Deployment Wizard は、有効なSIDがsid_filesディレクトリにある場合、SIDファイルの場所を自動的に入力します。SIDファイルを他の場所に保存している場合、ソフトウェアオーダーのSIDファイルの保存場所を入力してください。SIDファイルの保存場所が不明の場合、[参照] をクリックして保存場所を探してください。SIDファイルを選択すると、ダイアログにその詳細が表示されます。

SIDファイルの場所が確定したら、[次へ] をクリックします。

8. [SASソフトウェアデポのディレクトリの指定] ダイアログが表示されます。[SASソフトウェアデポのディレクトリ] テキストボックスに、クライアントイメージを作成する場所を入力します。あるいは、[参照] をクリックして、保存場所を探します。クライアントイメージの場所が確定したら、[次へ] をクリックします。

注意：ファイルまたはサブディレクトリを含む場所をターゲットディレクトリに指定して、この種類のSASソフトウェアデポを作成できません。この新しいソフトウェアデポの目的は、その場所からSASソフトウェアを実行可能にすることなので、エンドユーザーがアクセスできるようにしておく必要があります。

9. [最終確認] ダイアログが表示する、これまで入力した内容を確認します。この情報には、クライアントイメージの作成に必要な空きディスク容量も含まれています。入力した情報が正しく、クライアントイメージの作成に必要な空きディスク容量も満たしていることを確認したら、[開始] をクリックして作業を開始します。以前に入力した情報に修正が必要な場合は、[戻る] をクリックしてその画面まで戻り、修正を行ってください。
10. [SASソフトウェアオーダーの追加中] ダイアログが表示されます。さらに、[SAS管理者ウィザード] の画面が表示されます。[SAS管理者ウィザード] ダイアログで [次へ] をクリックします。
11. 作業中のSASソフトウェアデポのすべてのSAS Foundationソフトウェアが、[コンポーネントの選択] ダイアログに表示されます。インストールする各プロダクト名のチェックボックスが選択されていることを確認してください。リストのすべてのプロダクトを選択するには、[SAS 9.2] を選択します。プロダクトが選択されている状態で、リストのすべてのプロダクトの選択を外すには、[SAS 9.2] を選択します。選択したSIDファイルに含まれるすべてのプロダクトをインストールするには、[ライセンスされているソフトウェアを選択] をクリックします。インストールするソフトウェアが選択されていることを確認したら、[次へ] をクリックします。
12. [ファイルのコピーの開始] ダイアログが表示されます。入力に間違いがある場合は、[戻る] をクリックして前の画面に戻って、再度選択してください。ファイルのコピーの準備ができたなら、[次へ] をクリックします。

13. コピーの進捗状況を示すウィンドウが表示されます。この処理が終了したら、[SAS管理者ウィザード] ダイアログは終了し、[SASソフトウェアオーダーの追加中] ダイアログに進捗が表示されます。それが完了したら、[次へ] をクリックします。
14. SAS Deployment Wizardが完了したタスクを説明する[SASソフトウェアオーダーの追加] ダイアログが表示されます。[完了] をクリックし、SAS Deployment Wizardを終了します。

パーソナルソフトウェアデポの作成

1. 作業するディレクトリのルートからSAS Deployment Wizardを起動します。
2. [言語の選択] ダイアログで、SAS Deployment Wizardを実行する言語を選択します。
3. [配置タスクの選択] ダイアログが表示されます。[SASソフトウェアデポの新規作成] を選択し、[次へ] をクリックします。
4. 複数のオーダーを含むSASソフトウェアデポからこのタスクを実行している場合、[ソフトウェアオーダーの選択] ダイアログが表示されます。クライアントイメージを作成するソフトウェアオーダーを選択し、[次へ] をクリックします。
5. [オーダーの詳細の指定] ダイアログが表示されます。内容に誤りがないかどうか、[オーダー番号] フィールドと[インストールするSASプロダクト] フィールドを確認します。[説明] および[メモ] フィールドに、新しいソフトウェアデポを識別するための情報を入力しておきます。新しいSASソフトウェアデポを作成する準備ができれば、[次へ] をクリックします。
6. [SASソフトウェアデポのオプションの選択] ダイアログが表示されます。[個人ユーザー] を選択し、[次へ] をクリックします。
7. [SASインストールデータの指定] ダイアログが表示されます。SAS Deployment Wizardは、有効なSIDがsid_filesディレクトリにある場合、SIDファイルの場所を自動的に入力します。SIDファイルを他の場所に保存している場合、ソフトウェアオーダーのSIDファイルの保存場所を入力してください。SIDファイルの保存場所が不明の場合、[参照] をクリックして保存場所を探してください。SIDファイルを選択すると、ダイアログにその詳細が表示されます。

SIDファイルの場所が確定したら、[次へ] をクリックします。
8. [SASソフトウェアデポのディレクトリの指定] ダイアログが表示されます。[SASソフトウェアデポのディレクトリ] テキストボックスに、パーソナルソフトウェアデポを作成する場所を入力します。あるいは、[参照] をクリックして、保存場所を探します。パーソナルソフトウェアデポの場所が確定したら、[次へ] をクリックします。

注意： 他のファイルまたはサブディレクトリを含む場所をターゲットディレクトリに指定して、この種類のSASソフトウェアデポを作成できません。この新しいSASソフトウェアデポの目的は、その場所からエンドユーザーがインストールすることなので、新しいソフトウェアデポの場所にアクセスできるようにしておく必要があります。

9. [最終確認] ダイアログが表示する、これまで入力した内容を確認します。この情報には、パーソナルソフトウェアデポの作成に必要な空きディスク容量も含まれています。入力した情報が正しく、SASソフトウェアデポの作成に必要な空きディスク容量も満たしていることを確認したら、[開始] をクリックして作業を開始します。以前に入力した情報に修正が必要な場合は、[戻る] をクリックしてその画面まで戻り、修正を行ってください。
10. [SASソフトウェアオーダーの追加中] ダイアログが表示されます。さらに、[SAS管理者ウィザード] の画面が表示されます。[SAS管理者ウィザード] ダイアログで [次へ] をクリックします。
11. 作業中のSASソフトウェアデポのすべてのSAS Foundationソフトウェアが、[コンポーネントの選択] ダイアログに表示されます。インストールする各プロダクト名のチェックボックスが選択されていることを確認してください。リストのすべてのプロダクトを選択するには、[SAS 9.2] を選択します。プロダクトが選択されている状態で、リストのすべてのプロダクトの選択を外すには、[SAS 9.2] を選択します。選択したSIDファイルに含まれるすべてのプロダクトをインストールするには、[ライセンスされているソフトウェアを選択] をクリックします。インストールするソフトウェアが選択されていることを確認したら、[次へ] をクリックします。
12. [ファイルのコピーの開始] ダイアログが表示されます。入力に間違いがある場合は、[戻る] をクリックして前の画面に戻って、再度選択してください。ファイルのコピーの準備ができたなら、[次へ] をクリックします。
13. コピーの進捗状況を示すウィンドウが表示されます。この処理が終了したら、[SAS管理者ウィザードは終了しました] ダイアログが表示されます。[次へ] をクリックして、処理を継続します。
14. [SAS管理者ウィザード] ダイアログは終了し、[SASソフトウェアオーダーの追加中] ダイアログに進捗が表示されます。それが完了したら、[次へ] をクリックします。
15. SAS Deployment Wizardが完了したタスクを説明する [SASソフトウェアオーダーの追加] ダイアログが表示されます。[完了] をクリックし、SAS Deployment Wizardを終了します。

第4章 コマンドラインオプション

Quietインストール

Quietモードのインストールでは、ウィザードを対話的に実行する場合の応答を、ユーザーが不在でも自動的に行うことができます。これは、ユーザーが立ち会わない状況でインストールすることを想定しています。

Quietインストールを行うには、下記の「記録と再生」の「記録モード」に従って、最初に応答ファイルを作成します。応答ファイルを作成したら、下記の「Quiet再生モード」の指示に従って、インストールを行うマシン上でQuietインストールを行います。

Windowsのユーザーは、以下の「再起動（Windowsのみ）」セクションで説明しているコマンドラインオプションを、System Requirementウィザードの使用後に起こるかもしれない再起動に対して使用することも考慮してください。

記録と再生

記録と再生は、ダイアログへの応答を保存し、後でそれを使用する、SAS Deployment Wizardの機能です。SAS Deployment Wizardは、記録と再生に3つのモードを提供します。下記では、各モードについて解説しています。

SASソフトウェアデポの作成および操作中は、「記録と再生」セクションのどのコマンドラインオプションの使用もサポートされないことに注意してください。

記録モード（Record Mode）

注意： 作成された応答ファイルは、プレーンまたは暗号化されたパスワードを含んでいるかもしれません。他の重要な情報を含むファイルと同様に、応答ファイルを安全な場所で管理してください。

SAS Deployment Wizardをこのモードで実行すると、SAS Deployment Wizardを実行したときに表示される各ダイアログに対するユーザーの応答を含む応答ファイルを作成します。このモードによる応答ファイルを作成する際、SAS Deployment Wizardは最後まで実行しなければなりません。

注意： ユーザーからの応答が必要なプロダクトを含む配置を記録した場合、応答ファイルにはそれらの手動の操作は記録されません。したがって、この方法で作成した応答ファイルは、いずれの再生方法（Quiet再生モードまたは対話的再生モード）で使用するのも適切ではありません。「記録」と「再生」を使用する場合、Dataflux Integration ServeおよびdfPower Studioがインストールするプロダクトのリストに表示されていない、またはそのリストで選択されていないことを確認してください。

使用方法：

```
-record
```

応答ファイルは、デフォルトではすべてのプラットフォームにおいてユーザーホームディレクトリに作成されます。ファイル名はsdwresponse.propertiesになります。

応答ファイルの場所は、コマンドに引数を追加することによって、指定できます。

```
-responsefile "<full path to the response file>"
```

注意：ファイルの保存場所として、既存のファイルがある場所を指定した場合、既存のファイルはSAS Deployment Wizardによって上書きされます。

例：

```
setup.exe -record -responsefile "C:¥Program Files¥SAS¥  
sdwresponse.properties"
```

デフォルトでは、記録モードを実行した場合、配置は行われません。記録中に配置を行うには、引数に`-deploy`を指定します。

注意：「記録」と「再生」の使用中にその他のコマンドラインオプションを指定しても、それらのオプションは応答ファイルに含まれません。適切に応答ファイルを使用するには、「再生」でそれら同じコマンドラインオプションを再度指定しなければなりません。

Quiet再生モード (Quiet Playback Mode)

このモードで実行すると、SAS Deployment Wizardのユーザーインターフェイスが表示されません。このモードで実行するには、応答ファイルが必要です。応答ファイル中に有効な応答のないダイアログが存在する場合、ログファイルにメッセージが記録され、SAS Deployment Wizardはエラーコード `-1` を返します。このモードによるSAS Deployment Wizardの実行中は、画面上にエラーは表示されません。インストール後、ログファイルを参照し、エラーの有無を確認することを推奨します。

ログファイルの置き場所は、次章の「SAS Deployment Wizardのログファイル」に解説しています。

使用方法：

```
-quiet
```

応答ファイルは、前もって作成されていなければなりません。作成場所は、デフォルトではすべてのプラットフォームにおいてユーザーホームディレクトリで、ファイル名は `sdwresponse.properties` になります。

応答ファイルの場所は、コマンドに引数を追加することによって指定できます。

```
-responsefile "<full path to the response file>"
```

例：

```
setup.exe -quiet -responsefile "C:¥Program Files¥SAS¥  
sdwresponse.properties"
```

Windowsにおける注意点

Windowsのユーザーは、さらに`-wait`オプションも指定できます。`-wait`オプションを指定すると、SAS Deployment Wizardが完了するまで、タスクマネージャのプロセスリストに`setup.exe`プロセスが表示され続けます。このことは、Microsoft SMSやIBM Tivoliのようなプロビジョニング

ソフトウェアを使用している場合に重要になります。下記に、-waitオプションを指定した例を示します。

```
setup -wait -quiet -responsefile "C:¥Program Files¥SAS
¥sdwresponse.properties"
```

Quiet再生モード中のSAS Deployment Wizardの監視

QuietモードにおけるSAS Deployment Wizardの実行では、インストールの監視、およびエラーに気付くのがより困難です。この問題に対処するには、Windowsではタスクマネージャを使用し、UNIXおよびz/OSでは定期的にpsコマンドを発行して、SAS Deployment Wizardが動作しているかどうかを追跡します。

Windowsでは、Windowsのタスクマネージャのプロセスのリストにsetup.exeが表示され続けるように、QuietモードでSAS Deployment Wizardの起動の際に、-waitオプションを指定します。

たとえば、次のようになります。

```
setup.exe -quiet -wait -responsefile "C:¥Program Files¥SAS
¥sdwresponse.properties"
```

-waitオプションを使用しない場合、java.exeプロセスを監視してください。

注意：ネットワーク管理ソフトウェア（SMSやTivoliなど）を使用している場合、SAS Deployment WizardをQuietモードで実行する際に、いつSAS Deployment Wizardが実行を終了したのかを判断するため、-waitオプションを必要とするかもしれません。詳細は、該当するネットワーク管理プラットフォームのドキュメントを参照してください。

UNIXおよびz/OSでは、ほとんどのプロセスと同様に、SAS Deployment WizardをQuietモードで実行中に監視するにはpsコマンドを発行します。SAS Deployment Wizardが実行する実際のスクリプトはその時々によって変わるため、psコマンドの出力ではプロセス名は常にsetup.shではないことを覚えておいてください。しかし、プロセスIDは同じままになります。

たとえば、SAS Deployment Wizardを実行し、すぐにpsコマンドを発行（[言語の選択] ダイアログボックスが表示される前に）したとします。出力は次のようになります。

```
31762 pts/2 S 0:00 /bin/sh /depot/setup.sh
```

シェル/bin/shが起動した最初のスクリプトは、/depot/setup.shです。シェルは親プロセスで、この例ではプロセスIDは31726になります。setup.shが実行を終了すると、deploywiz.shスクリプトに制御が移ります。SAS Deployment Wizardを実行している間にプロセスを確認すると、表示はおおよそ下記のようになります。

```
31762 pts/2 S 0:00 /bin/sh
/tmp/_setup31762/products/deploywiz__9220__prt__xx__sp0__1/deploywiz.sh
-startuplocation /depot
-templocation /tmp/_setup31762
```

シェル/bin/shはまだ存在していて、同じプロセスIDを保持しています。しかし、このシェルは現在異なるスクリプトdeploywiz.shを実行しています。

対話的再生モード (Interactive Playback Mode)

応答ファイルは、SAS Deployment Wizardのダイアログに対する応答を、すべて自動的に入力するために使用することができます。このモードでは、SAS Deployment Wizardのすべてのダイアログが表示され、デフォルト値が応答ファイルからロードされます。

注意： UNIX環境では、ソフトウェアのインストールに-responsefileコマンドラインオプションを使用する場合においても、X11のようなウィンドウ環境をインストールしておく必要があります。-responsefileコマンドラインオプションを使用しても、グラフィカルユーザーインターフェイスは呼び出されます。

使用方法：

```
-responsefile "<full path to the response file>"
```

例：

```
setup.exe -responsefile "C:\Program Files\SAS\sdwresponse.properties"
```

再起動 (Windowsのみ)

SASソフトウェアのインストールを行うWindowsユーザーは、System Requirementウィザードを使用して、システム必要条件を満たしているのを確認します。System Requirementウィザードは、マシン環境がシステム必要条件を満たしていないと判断した場合、SAS Deployment Wizardを終了し、最小限の必要条件のインストールを行い、必要に応じて再起動を行います。Quietインストールを行っている場合、マシンの再起動後、SAS Deployment Wizardが非対話的に作業を再開できるようにするため、以下のコマンドラインオプションを使用してください。

注意： 以下のコマンドラインオプションに使用する値は、Windows自動ログオン機能を使用してWindowsレジストリに一時的に保存されます。まれに、これらの値が使用後にWindowsレジストリに残る場合があり、その場合には潜在的セキュリティリスクになります。この機能の詳細および含まれるセキュリティリスクについての情報は、マイクロソフト社のこの問題に関するドキュメントを参照してください。再起動後の自動ログオンの利便性におけるリスクと、そのサイトにおけるセキュリティポリシーを比較検討して運用してください。

ドメインの指定

このコマンドラインオプションは、マシンの再起動後にログオンするドメインを指定できます。

使用方法：

```
-restartdomain <domain name>
```

例：

```
-restartdomain localnt
```

ユーザーIDの指定

このコマンドラインオプションは、マシンの再起動後のログオンに使用するユーザーIDを指定できます。

使用方法 :

```
-restartuserid <user ID>
```

例 :

```
-restartuserid myname
```

パスワードの指定

このコマンドラインオプションは、マシンの再起動後のログオンに使用するパスワードを指定できます。

使用方法 :

```
-restartpassword <password>
```

例 :

```
-restartpassword code1234
```

ログの作成

配置において、ログファイルで使用する詳細のレベルを指定するのに、コマンドラインを使用することができます。3種類のログレベルがあります。

- ログレベル0 – このレベルは、SAS Deployment Wizardのログを、最も低い詳細度に設定します。配置についておおよその情報のみ提供します。
- ログレベル1 – このレベルは、SAS Deployment Wizardのログを、デフォルトの詳細度に設定します。冗長モードです。
- ログレベル2 – このレベルは、SAS Deployment Wizardのログを、最も高いレベルに設定します。デバッグモードです。

使用方法 :

```
-loglevel <value between 0 and 2>
```

例 :

```
setup.exe -loglevel 2
```

その他**異なるSASHOME (SASホーム) の指定 (Windowsのみ)**

WindowsでSAS Deployment Wizardを最初に使用する際、SASHOMEとして参照されるSASソフトウェアをインストールする場所を指定するように求められます。最初に指定したその場所が、その後のすべて作業においてデフォルトの場所として使用されます。デフォルトではない異なる場所をSASHOMEとして使用する場合、-changesashomeオプションを使用してSAS Deployment Wizardの[SASホームの指定] ページを表示させてください。SAS Deployment Wizardは、ここに指定した場所を新しいSASHOMEをデフォルトの場所として使用します。

注意： WindowsではアクティブなSASHOMEは1つだけです。使用中のSASソフトウェアを含むSASHOMEをすでに定義していて、そのSASソフトウェアを使用し続ける場合、`-changesashome`は使用するべきではありません。

使用方法：

```
-changesashome
```

例：

```
setup.exe -changesashome
```

プロビジョニング (Windowsのみ)

Microsoft SMS、Microsoft SCCM 2007、IBM Tivoliなどのプロビジョニング環境を使用している場合、SAS Deployment Wizardで`-provision`コマンドラインオプションを使用することを推奨します。このコマンドラインオプションは、SAS Deployment Wizardがプロビジョニング環境に相反しない方法で動作することを可能にします。

使用方法：

```
-provision
```

例：

```
setup.exe -provision -quiet -responsefile "C:¥Program Files¥SAS¥  
sdwresponse.properties"
```

SAS 9.2でプロビジョンを行う方法の詳細は、『Provisioning Systems and Other Ways to Share the Wealth of SAS Across a Network』を参照してください。このドキュメントは、<http://support.sas.com>から入手できます（左側のナビゲーションバー「KNOWLEDGE BASE」下の「Papers」を選択し、表示されたページで「Installation and Enterprise Administration」を選択します）。

Java実行環境 (JRE) の変更

SASインストールにおける最初のJava実行環境 (JRE) の選択の後、その後の任意の配置においてSAS Deployment Wizardの画面を経由してJREを変更することができます。しかし、アップデート (更新) をインストール中で、かつ新しいJREを指定したい場合、`forcejreprompt`コマンドラインオプションを使用してください。`forcejreprompt`は、SAS Deployment WizardにSASソフトウェアと共に使用するJREの場所を求めさせます。このオプションは、アップデート適用する場合にのみ有用です。

使用方法：

```
-forcejreprompt
```

例：

```
setup.exe -forcejreprompt
```


JRE変更後の再構成

-forcejrepromptを使用してJREを変更する場合、Javaで作成されたプロダクトが変更したJREを使用するように、sassw.configファイルも修正する必要があります。SASHOMEディレクトリからsassw.configファイルを探してください。それから、テキストエディタでsassw.configファイルを開き、JRE値を-forcejrepromptコマンドラインオプションで変更するJREへのフルパスに修正します。たとえば、次のようになります。

```
JREHOME=C:\Program Files\Java\jre6\bin\java.exe
```

影響を受けるすべての個所が適切に更新されていることを確認するため、JRE変更後に行うべき追加作業があります。詳細は、SAS社のWebサイトにあるドキュメント「その他のJava Runtime Environmentまたは、Java Development Kitを使用したSAS 9.2の構成」 (<http://www.sas.com/offices/asiapacific/japan/service/resources/thirdpartysupport/v92/AlternateJRE.html>) を参照してください。

スタンドアロンプロダクトのインストール

SAS Integration Technologies ClientやSAS Providers for OLE DBなどのいくつかのSASプロダクトでは、[standalone]と記述される少し異なる配置方法があります。スタンドアロンプロダクトがWindows上でSAS Foundationと同時にインストールされる場合、スタンドアロンプロダクトは [配置の要約] ダイアログのインストールされるプロダクトの一覧に表示されません。これは、そのプロダクトがSAS Foundationの一部としてインストールされるからです。スタンドアロンプロダクトをSAS Foundationを選択しないでインストールすると、[配置の要約] ダイアログのインストールされるプロダクトの一覧に表示されます。

コマンドラインオプションの一覧の表示

SAS Deployment Wizardで使用できるコマンドラインオプションの一覧を表示するには、-helpオプションを指定します。このコマンドラインオプションは、SAS Deployment Wizardを実際に起動することなく、コマンドラインオプションを説明するメッセージウィンドウを表示します。

使用方法 :

```
-help
```

例 :

```
setup.exe -help
```


第5章 基本的なトラブルシューティング

SAS Deployment Wizardのログファイル

SAS Deployment Wizardは、実行中にログファイルを作成します。ログファイルには、成功した操作、および失敗した操作の情報の両方が含まれています。これらのログに含まれているこれらの情報は、ユーザーが理解するには複雑すぎますが、SASテクニカルサポートに問い合わせる際に必要となる重要な情報が含まれています。

このログファイルは、デフォルトではオペレーションシステムごとに次の場所に含まれていません。

すべてのWindowsオペレーティングシステム

```
%USERPROFILE%\Local Settings\Application Data\SAS\SASDeploymentWizard\9.2\SDW.log
```

UNIX

```
$HOME/.SASAppData/SASDeploymentWizard/9.2/SDW.log
```

HP OpenVMS

```
SYS$SYSROOT:[SYSUPD.SASAppData.SASDeploymentWizard.9^2]SDW.log
```

インストールのログファイル

SASソフトウェアの各コンポーネントをインストールすると、そのコンポーネントのインストールに関する情報を含んだ個別のログファイルが作成されます。これらのログファイルはSAS Deployment Wizardのログファイルとは異なります。インストールのログファイルでは、各コンポーネントの詳細が含まれていますが、SAS Deployment Wizardのログファイルには、各コンポーネントのインストールが成功したか失敗したかについて記録されているだけです。インストール中に問題が発生した場合、SASテクニカルサポートに問い合わせるにはインストールのログファイルが必要になります。

インストールのログファイルは、SASHOME\InstallMisc\InstallLogsにあります。

トラブルシューティングのヒント

この章では、SASソフトウェアのインストールと設定における基本的なトラブルシューティングのテクニックを紹介します。さらに詳細なトラブルシューティング情報が必要な場合、『SAS 9.2 Intelligence Platform: SAS 9.2 Intelligence Platform: Installation and Configuration Guide』を参照してください。

<http://www.sas.com/japan/service/documentation/onlinedoc/intellplatform/>

それでも問題が解決しない場合は、SASテクニカルサポートまでお問い合わせください。

SASソフトウェアのインストールにおけるトラブルシューティング

Windows Vistaを使用している場合の [ユーザーアカウント制御] ダイアログの表示

質問： 配置を通常のコマンドプロンプトから実行した際、 [ユーザーアカウント制御] ダイアログが表示され、プログラムを実行するには権限が必要で、続行するかキャンセルするかの入力を求められる。これによって、SAS Deployment WizardによるSASソフトウェアの無人インストールができない。

回答： これはSASによる問題ではありません。Windows Vistaでは、それが無人（サイレント）または対話的にかかわらず、（どのようなインストールにおいても）ユーザーの応答なしに、管理者権限を必要とするファイルの実行はできません。いったんプログラムが特権を与えられると、そのプロセスから呼び出されるどのような新しいプログラムも、同じ特権が自動的に与えられます。したがって、同じダイアログが多数表示されることはありません。

この問題に対処するには、管理者用のコマンドプロンプトから、SAS Deployment Wizardを起動します。この方法では、配置は、すでに管理者特権を持つプロセスから呼び出されることとなります。これを行うには、 [スタート] - [プログラム] - [アクセサリ] - [コマンドプロンプト] を選択して、さらに右クリックして [管理者として実行] を選択します。

ソフトウェアの設定におけるトラブルシューティング

デフォルト値の欠落

質問： SAS Deployment Wizardによる設定を行った際、いくつかのダイアログでデフォルト値が入力されていない。これはどうしてか。

回答： フィールドがデフォルトで空白であるのは、オーダーにないプロダクトを含むプランファイルを使用しているため、SAS Deployment Wizardが読み込むデフォルトのプロパティファイルがないという理由によります。一致するプランファイルとオーダーを選択する必要があります。そうでなければ構成は失敗します。

SASソフトウェアのアンインストールにおけるトラブルシューティング

VPDにインストールしたコンポーネントが見当たらない

質問： SASソフトウェアをアンインストールする際、ログファイルに、VPDにインストールしたコンポーネントが見当たらない、と出力され、再インストールが更新モードで行われる。

回答： ソフトウェアのアンインストールをWindows Terminal Serverを使用して行った場合、log.txtファイルに次のように出力されるかもしれません。

```
Jan 4, 2009 4:16:39 PM), Uninstall.product.uninstall,
com.installshield.wizard.platform.win32.Win32ProductServiceImpl, wrn,
Installed Component with UID = 60cb1b9a85211d7a5c968f4d6f9493f8 was not
found in the VPD.
```

その後、再インストールしようとすると、更新モードがデフォルトになります。

このエントリは、アンインストールがインストールモード以外の何らかのモードで行われた場合に作成されます。Terminal Servers上でソフトウェアのインストールまたはアンインストールを行う前に、以下のコマンドを使用してインストールモードに変更したことを常に確認してください。

```
C:¥> change user /install
```

「The Scrollbar Page Increment is Less than 1」の表示

質問：UNIX上でソフトウェアのアンインストールを行った際、「The scrollbar page increment is less than 1」と表示される。

回答：この表示はアンインストールとは関係がありません。無視してください。

第6章 追加ツール

SASソフトウェアに特定の機能を提供するいくつかの追加ツールがあります。SAS Uninstall Wizardは、Windows環境のSASプロダクトを削除します。この機能により、Windowsコントロールパネルを経由してプロダクトを個別にアンインストールする手間を回避することができます。SAS VJR Uninstall Wizardは、SASソフトウェアのアンインストール後、通常のアンインストールプロセスでは削除できないファイルを削除するために使用します。SAS File Type Management Toolは、Windows専用のユーティリティで、通常SASに関連付けられているファイルの種類に対して、デフォルトのファイルアプリケーションを設定します。

SAS Uninstall Wizard (Windows環境のみ)

SAS Uninstall Wizardは、Windows環境において、SAS 9.2のすべてのプロダクトを削除するツールです。このツールは、Windowsのプログラムの追加と削除を使用して各プロダクトを手動で削除するオプションを提供します。

SAS Uninstall Wizardは、マシンに現在インストールされているすべてのSAS 9.2のプロダクトのリストを表示します。それからウィザードは、リストにあるすべてのプロダクトを削除するかを確認を求めます。Advanced Options (アドバンスオプション) を使用することにより、どのSASプロダクトを削除するかを選択できます。SAS Uninstall Wizardは、Windowsサービスは削除しません。SAS 9.2プロダクトを削除する前に、プラン配置では構成を解除しなければなりません。プラン配置を使用している場合、『SAS 9.2 Intelligence Platform: Installation and Configuration Guide』の「Managing Your SAS Deployment」を参照してください。このドキュメントは次の場所にあります。

<http://support.sas.com/documentation/cdl/en/biig/60946/PDF/default/biig.pdf#page=143>

SAS Uninstall Wizardの実行

管理者 (Administrator) としてログオンしてください。

1. コマンドラインから、次のコマンドを発行します。

```
suw.exe -sashome "<SASHOME location>"
```

2. マシンにインストールされているSASプロダクトのリストが表示されます。ウィザードは、このリストのすべてのプロダクトを削除します。リストのすべてのSASプロダクトを削除する場合は、[はい (Yes)] をクリックします。

注意： 特定のプロダクトを削除する選択を行う場合は、下記のAdvanced Options (アドバンスオプション) 参照してください。

3. 進捗を示すインジケータのダイアログボックスが表示されます。SAS Uninstall Wizardが終了したら、確認を促すメッセージが表示されます。[OK] をクリックします。
4. コマンドプロンプトウィンドウが終了し、SAS Uninstall Wizardのディレクトリに戻ります。すべてのSAS 9.2プロダクトが、このマシンから削除されました。

削除されたSASプロダクトの確認

SASプロダクトが削除されたかどうか確認するには、次の手順のいずれかを実行します。

- Windowsのコントロールパネルから「プログラムの追加と削除」を開き、削除したSAS 9.2プロダクトが表示されているかどうかを確認します。
- SAS Uninstall WizardログであるSUW_datetime.logを確認します。このログはC:¥SUWにあります。
- SAS Uninstall Wizardを再度実行します。ウィザードが、このマシン上のSAS 9.2プロダクトのリストを表示します。SAS 9.2のプロダクトがリストに含まれていなければ、削除は成功しています

SAS Uninstall Wizardコマンドラインオプション

SAS Uninstall Wizardでは、次のオプションを使用することができます。

- -sashome
このオプションには、SASHOMEのルートディレクトリを指定します。-sashomeオプションを指定しない場合、デフォルトでC:¥Program Files¥SASになります。SASHOMEディレクトリがC:¥Program Files¥SASでない場合、-sashomeオプションを使用してSASHOMEディレクトリの場所を指定しなければなりません。
- -log
このオプションは、明示的にSAS Uninstall Wizardのログファイルの名前と場所を指定するのに使用します。デフォルトでは、SAS Uninstall Wizardのログは、SAS Uninstall Wizardのホームディレクトリ（例：C:¥SUW）に保存されます。
- -v
このオプションは、冗長モードによるログを作成します。冗長モードによるログの作成は、SAS Uninstall Wizardを使用していて問題に遭遇した際のトラブルシューティングに役立ちます。
- -noexecute
このオプションは、SASプロダクトを削除することなくSAS Uninstall Wizardを実行します。さらに、このマシンにインストールされているSASプロダクトを示すリストであるproductsdate-time.txtを作成します。

Advanced Options（アドバンスオプション）の使用

SAS Uninstall Wizardは、ローカルまたはリモートのワークステーションにおいて、密かかつ選択的にSASソフトウェアを削除するいくつかの高度なオプションが含まれています。SAS社は、SAS Uninstall Wizardの機能をサポートしますが、アンインストールパッケージを配置するのに使用するサードパーティツールはサポートしていません。

- -quiet
このオプションは、SAS Uninstall Wizardを実行する際に、ユーザーの操作を必要としないようにします。-quietオプションは、すべてのSASプロダクトを削除する場合に使用します。この際、手動の操作やダイアログボックスは表示されません。このオプションは、選択したプロダクトのみ削除する場合に、-only productsdate-time.txtオプションと共に使用することができます。詳細は、下記を参照してください。

- **-removeSASHOME**

このオプションは、SASHOMEディレクトリを削除します。このオプションを使用する前に、SASHOMEディレクトリを削除してもよいのかを確認してください。次のような場合、このオプションを使用しないでください。

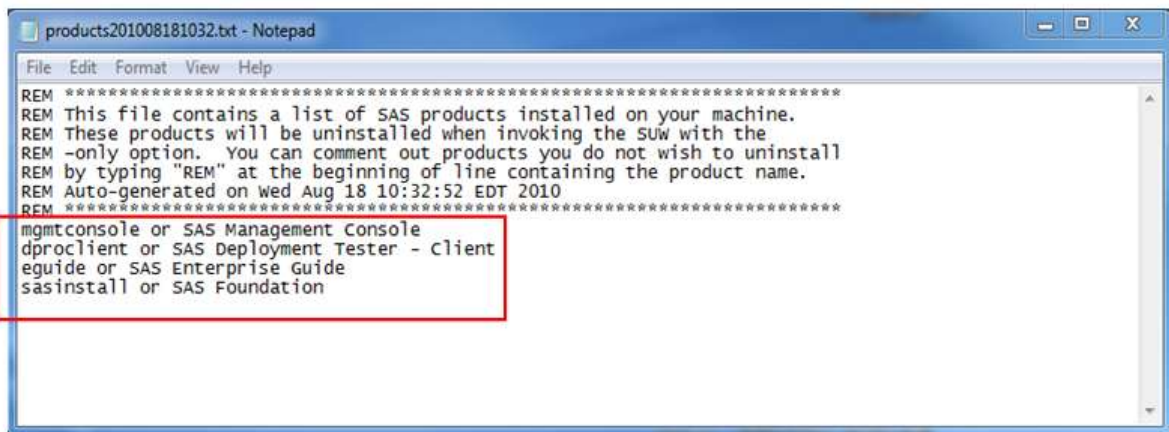
- 削除するSASプロダクトを選択するのに、変更したproductsdate-time.txtファイルを使用している。
- SAS 9.1.3がインストールされていて、SAS 9.2が使用している同じSASHOMEディレクトリを使用している。
- 他のSAS 9.2がインストールされていて、同じSASHOMEディレクトリを使用している。

- **-only filename.txt**

このオプションは、削除するSASプロダクトの選択を可能にします。SAS Uninstall Wizardを実行すると、productsdate-time.txtがSAS Uninstall Wizardのホームディレクトリに作成されます。このファイルには、このマシンにインストールされているすべてのSASプロダクトのリストが含まれています。

このファイルを作成するには、SAS Uninstall Wizardに-noexecuteオプションを付けて実行します。このオプションを使用した場合、実際にSASプロダクトの削除は行われません。-onlyオプションを使用すると、ファイルのリストに記載されているSASプロダクトを削除します。このファイルを編集することにより、削除するSASプロダクトを選択することができます。このファイルに記載されたままのどのようなプロダクトも削除されます。

たとえば、SAS Uninstall Wizardを実行する際、下記のプロダクトがリストに記載されているとします。



```

products201008181032.txt - Notepad
File Edit Format View Help
REM *****
REM This file contains a list of SAS products installed on your machine.
REM These products will be uninstalled when invoking the suw with the
REM -only option. You can comment out products you do not wish to uninstall
REM by typing "REM" at the beginning of line containing the product name.
REM Auto-generated on Wed Aug 18 10:32:52 EDT 2010
REM *****
mgmtconsole or SAS Management Console
dproclient or SAS Deployment Tester - Client
eguide or SAS Enterprise Guide
sasinstall or SAS Foundation

```

SAS Management Console（SAS管理コンソール）とSAS Deployment Tester – Clientのみを削除する場合、リストからSAS FoundationとSAS Enterprise Guideの記載を手動で削除しなければなりません。その結果、リストは次のようになります。

```

products201008181032.txt - Notepad
File Edit Format View Help
*****
REM This file contains a list of SAS products installed on your machine.
REM These products will be uninstalled when invoking the SUW with the
REM -only option. You can comment out products you do not wish to uninstall
REM by typing "REM" at the beginning of line containing the product name.
REM Auto-generated on wed Aug 18 10:32:52 EDT 2010
*****
mgmtconsole or SAS Management Console
dproclient or SAS Deployment Tester - Client

```

このファイルを保存してください。SAS Uninstall Wizardを実行する際に-onlyオプションにproductsdate-time.txtファイルを指定して使用すると、このファイルに記載されているSASプロダクトのみが削除されます。

注意： productsdate-time.txtファイルの場所およびファイル名は変更できます。その場合、指定した新しいファイルの場所とファイル名を確認してからSAS Uninstall Wizardを起動してください。

トラブルシューティング

SAS Uninstall Wizardを起動した際、次のようなメッセージが表示される場合があります。

```
<<>>No SASHOME Environment Variable found. Defaulting to (C:¥Program Files¥SAS)
```

```
<<>>SASHOME Environment Variable(C:¥Program Files¥SAS) OVERRIDDEN by
-sashome option(C:¥Program Files¥SASS<)
```

このメッセージが表示されるのは、SASHOMEディレクトリを指定する-sashomeオプション使用し、指定したパス名に誤りがあった場合です。必要に応じてSASHOMEディレクトリのパスを確認および修正してください。そうしたら、再度SAS Uninstall Wizardを起動してください。-sashomeオプションを指定しない場合、SAS Uninstall WizardはC:¥Program Files¥SASをデフォルトとして使用します。

トラブルシューティングにおけるSASファイルの分析

以下は、SAS Uninstall Wizardを使用して問題に遭遇した際にトラブルシューティングの助けになるSASファイルです。SAS Uninstall Wizardにおける問題についてSASテクニカルサポートに連絡する際、これらのファイルが必要になる場合があります。

- SUWdate-time.log (utilities¥uninstallwizard¥)
- Productsdate-time.txt (utilities¥uninstallwizard¥) -- 使用している場合
- 個々のプロダクトのバッチファイル (utilities¥uninstallwizard¥)
- 個々のプロダクトのレスポンス (応答) ファイル (C:¥)
- version.dat (utilities¥uninstallwizard¥)

SAS Uninstall Wizardによって削除されないプロダクト

SAS Uninstall Wizardは、以下のプロダクトは削除しません。

- SAS/IML Studio
- SAS Add-In for Microsoft Office (Windows x64)
- SAS Stat Studio (Windows x64)
- SAS/GRAPH NV Workshop (Windows x64)
- SAS Drivers for ODBC (Windows x64)

これらの問題についての修正は、現在未定です（今後のリリースで修正される予定です）。

注意： SAS Uninstall Wizardは、DataFluxプロダクトは削除しません。DataFluxプロダクトの削除は、SAS Uninstall Wizardの対象外になります。

SAS VJR Uninstall Wizard

SAS VJR Uninstall Wizardは、SASソフトウェアをアンインストール後、Versioned JAR Repository (VJR)に残ったファイルを削除します。このリポジトリに含まれているファイルを合計すると、数百MBになります。したがって、この分の空き容量が増えることはシステムにとって重要な場合があります。VJR Uninstall Wizardは、Windows環境およびUNIX環境で使用できます。

SAS VJR Uninstall Wizardの使用方法は、次のとおりです。

1. SAS VJR Uninstall Wizardの起動

Windows

コントロールパネルを開き（Windows XPでは [スタート] - [コントロールパネル] ）、 [プログラムの追加と削除] を選択します。プログラムのリストが表示されたら、「SAS Versioned Jar Repository 9.2」を選択し、 [変更と削除] をクリックします。

UNIX

SAS VJR Uninstall Wizardを起動するには、\$ <SASHOME>/uninst/uninst.shコマンドを発行します。

2. [VJR Removal] ダイアログが表示されます。 [Uninstall] をクリックします。
3. Versioned JAR Repository (VJR) が他のアプリケーションによって使用されている場合、メッセージが表示されます。 [OK] をクリックし、アラートメッセージを表示しているウィンドウを閉じます。

リポジトリを使用しているほかのアプリケーションがない場合、ダイアログの右側のグラフィックは削除が完了するまで移動します。SAS VJR Uninstall Wizardが完了すると、 [VJR Removal] ダイアログは閉じます。

SAS Update File Cleanup Utility

SAS Deployment Wizardが既存の配置をアップデートする場合、そのアップデートを元に戻すのに必要なバックアップファイルを作成します。しかし、アップデートを元に戻す必要がないと判断した場合のために、SAS社はバックアップを削除しディスクの空き容量を増やすユーティリティを提供しています。下記の手順は、SAS Update File Cleanup Utilityの起動および使用方法について解説しています。SAS Update File Cleanup Utilityは、WindowsおよびUNIX環境においてのみ使用できます

1. アップデートのインストールにおいて、SAS Update File Cleanup Utilityは<SASHOME>¥InstallMisc¥MITにインストールされます。Windows環境の場合、その場所にあるcleanup.batをダブルクリックしてください。UNIX環境では、cleanup.shを実行します。
2. SAS Update File Cleanup Utilityが起動し、クリーンアップするSASHOMEを表示します。このユーティリティは、自身がインストールされているSASHOMEに対してのみ使用できます。異なるマシンのSASHOMEをクリーンアップする場合、アップデートが適用された各マシン上のSAS Update File Cleanup Utilityを使用しなければなりません。
3. ユーティリティによって削除されたファイルは、元に戻すことができないことに注意してください。削除しても問題がないことが確認できたら、[Remove Backup Files] をクリックして処理を始めてください。[Results] にユーティリティがスキャンしている場所、削除しているファイル、作成された空き容量が表示されます。
4. 処理が終了したら、[Close] をクリックしてユーティリティを終了してください。

View Registry

SAS 9.2 (TS2M0) 以降において、ホットフィックスのインストールはSAS Deployment Registry に記録されます。レポートユーティリティであるView Registry (sas.tools.viewregistry.jar) は、配置レジストリの処理を行い、レポートファイル (DeploymentRegistry.html) を生成します。配置レジストリのレポートは、ホットフィックスを含む現在のSASHOMEにインストールされているすべてのSAS 9.2ソフトウェアを識別します。たとえば、次のようになります。

```
Host: s64
Product Code: base
Version: 9.21
Display Name: Base SAS
Display Version: 9.21_M1
Hotfix Entry: Hotfix A01002
Hotfix Entry: Hotfix A01012
Hotfix Entry: Hotfix A01021
Hotfix Entry: Hotfix A50001
Hotfix Entry: Hotfix A50005
Hotfix Entry: Hotfix A50016
```

```
Host: s64
Product Code: stat
Version: 9.21
Display Name: SAS/STAT
Display Version: 9.21_M1
```

テキスト形式のレポートであるDeploymentRegistry.txtも作成されます。HTML版およびテキスト版ともに、SASHOME/deploymntregディレクトリに作成されます。レポートユーティリティは、SAS 9.2 TS2M0以降ではデフォルトでSASHOME/deploymntregにインストールされます。

TS2M0より前のSAS 9.2を使用している場合、次のURLからsas.tools.viewregistry.jarをダウンロードできます。

```
http://ftp.sas.com/techsup/download/hotfix/HF2/util01/regreport/sas.tools.viewregistry.jar
```

このファイルはSASHOME/deploymntregディレクトリに.jarの拡張子で保存されなければなりません。さらに、Java 5以降が実行されていなければなりません。

このユーティリティを使用して、以下の手順で配置レジストリのレポートを生成してください。sas.tools.viewregistry.jarは、SASHOME/deploymntregディレクトリから実行されなければならないことに注意してください。

Windows :

sas.tools.viewregistry.jarの起動。

UNIX :

JARファイルの実行。たとえば、次のようになります。

```
java -jar sas.tools.viewregistry.jar
```

注意 : UNIX環境でレポートユーティリティを実行するには、レポートがSASHOMEに書き出されるため、この場所に対して書き込み権限が必要です。

VMI :

JARファイルの実行。たとえば、次のようになります。

```
java -jar sas.tools.viewregistry.jar
```

注意 : VMI上でレポートユーティリティを実行するには、最初に以下の論理およびプロセス属性を設定しなければなりません。

```
$ set process/parse=extended
$ DEFINE DECC$ARGV_PARSE_STYLE ENABLE
$ DEFINE DECC$EFS_CHARSET ENABLE
$ DEFINE DECC$EFS_CASE_PRESERVE ENABLE
$ define JAVA$FILE_OPEN_MODE 3
$ define java$filename_controls 0
```


付録A Windowsの管理

ターミナルサーバー環境またはCitrixにおけるSASインストールの準備

ターミナルサービスでSAS 9.2をサーバーに適切にインストールする準備として、以下の点を確認しなければなりません。

1. SAS 9.2をインストールするターミナルサーバーに、管理者としてログオンします。
2. Windowsターミナルサーバーにアプリケーションをインストールするには、インストールモードであることが必要です。システムをインストールモードにするのに、2つの方法があります。
 - コントロールパネルの [プログラムの追加と削除] から、 [プログラムの追加] を選択します。ユーザーオプションを変更するように求められます。すべてのユーザーが共通のアプリケーション設定で開始できるようにオプションを選択したことを確認します。
 - Windows NTコマンドプロンプト (cmd.exe) で、「change user /install」と入力します。インストールモードが正しく設定されたかどうかを通知するメッセージが表示されます。
3. ターミナルサーバー上のSAS 9.2のインストールでは、マシンの再起動が必要になります。ユーザーの中断を最小限にするため、インストールする前にターミナルサーバーのすべてのユーザーをログオフさせてください。リモートターミナルセッションでSASソフトウェアをターミナルサーバーにインストールすることができます。しかし、再起動の可能性のため推奨できません。

このインストールを続ける前に、アンチウイルスソフトウェアまたはファイアーウォールソフトウェアを停止させることを推奨します。この種類のソフトウェアを実行したままですと、アンチウイルスソフトウェアまたはファイアーウォールソフトウェアの構成によってはアプリケーションを正しくインストールする障害となるため、何回ものSASソフトウェアの再インストールが必要になる可能性があります。アンチウイルスソフトウェアまたはファイアーウォールソフトウェアを停止させることが困難な場合、そのシステム構成においてSASインストール担当者の権限でソフトウェアをインストールおよびレジストリを更新できることを確認してください。アンチウイルスソフトウェアおよびファイアーウォールソフトウェアを終了することが許可されず、かつSASのインストールが失敗する場合、システム管理者に問い合わせてください。

再起動が要求された場合、再起動後にターミナルサーバーへの接続を再度確立しなければなりません。さらに、サーバーをインストールモードに戻す必要があります。ターミナルサーバーセッションへのログオン後、セットアップが再開され、引き続きインストールが行われます。セットアップが再開しない場合、セットアップを起動すると再起動前に状態から再開されます。

ターミナルサーバー環境またはCitrixにおけるSAS 9.2のインストール

ターミナルサービスでSAS 9.2をサーバーにインストールするのは、SAS 9.2を他のサーバーにインストールするのと同じです。

付録B UNIXの管理

以下に、各UNIX環境におけるmountコマンドの例を示します。下記のデバイス名は、適宜実際のデバイス名に置き換えてください。これらの例では、マウントポイントは/mnt/dvdromを指定していますが、任意の場所を指定してもかまいません。

注意： ハードウェアの構成に多くの種類があるので、下記には一般的なmountコマンドの例を示しています。使用している環境における適切なmountコマンドは、システム管理者にお尋ねください。

AIX

```
# mount -r -v cdrfs /dev/cd0 /mnt/dvdrom
```

HP-UX、HP-UX(Itanium)

```
# mount -F cdrfs -o rr,ro /dev/dsk/c0t0d0 /mnt/dvdrom
```

Linux(Intel)、Linux x64

```
# mount -r /dev/dvd /mnt/dvdrom
```

Solaris、Solaris x64版

```
# mount -r -F hsfs /dev/dvd /mnt/dvdrom
```

リモートマウント

DVDドライブが他のマシン上にあり適切にエクスポートされている場合、下記のようなコマンドを発行して、NFSでDVDをマウントしてください。

```
# mount -o ro <remotehost>:/<dvd-rom-dir> /mnt/dvdrom
```

この例では、<remotehost>はDVDドライブのあるマシン、<dvd-rom-dir>はサーバー上のDVDドライブの実際のマウントポイントを示しています。



THE
POWER
TO KNOW.

support.sas.com

SAS is the world leader in providing software and services that enable customers to transform data from all areas of their business into intelligence. SAS solutions help organizations make better, more informed decisions and maximize customer, supplier, and organizational relationships. For more than 30 years, SAS has been giving customers around the world The Power to Know®. Visit us at **www.sas.com**.

英語版更新日 May 9 2012

SAS 9.2 (TS2M3), Rev. 920_11w09

Pub Code: 62130

SAS[®] Deployment Wizard ユーザーガイド

2012年5月18日 第2版第10刷発行 (92J218)

発行元 SAS Institute Japan株式会社

〒106-6111 東京都港区六本木6丁目10番1号 六本木ヒルズ森タワー11階

本書の内容に関する技術的なお問い合わせは下記までお願い致します。

SASテクニカルサポート

TEL: 03(6434)3680 FAX: 03(6434)3681